

令和6年度第1回八雲町総合教育会議記録

令和7年1月27日（月）

◎会議日程

- 1 開会
- 2 町長あいさつ
- 3 議事録署名委員の指名
- 4 議題
 - (1) ピア・サポート事業について
 - (2) その他
- 5 その他
- 6 閉会

◎出席者

町 長	岩 村 克 詔
教育長	土 井 寿 彦
委 員	羽 田 圭 吾
委 員	福 田 浩 子
委 員	石 岡 美 香
委 員	小 林 一 美

◎説明員・事務局

説明員・事務局	三 坂 亮 司（学校教育課長）
説明員	池 田 忠 寛（学校教育課参事）
説明員	佐 藤 真理子（社会教育課長）
説明員	伊 藤 勝（体育課長）
事務局	松 浦 真理子（学校教育課補佐兼総務係長）

【開会 午後3時00分】

◎会議日程1 開会

○学校教育課長 教育委員の皆様には、何かとお忙しい中ご出席をいただき、ありがとうございます。

ただいまから、令和6年度第1回八雲町総合教育会議を開催いたします。

開会にあたり岩村町長からご挨拶を申し上げます。

◎会議日程2 町長あいさつ

○町長 皆さん、こんにちは。本年もよろしくお願いいたします。今年は雪も少なくてこのまま春が来るのだろうかという陽気ですが、当然そうはならないだろうと思っています。

今年は、人口減少や少子化問題で色々なことが変化する年だと思っています。教育は、生まれてから亡くなるまでが教育だと思っています。この総合教育会議も皆さんとの意見交換を行いながら八雲町の教育全般を話題に進めてまいりたいと思いますのでどうぞよろしくお願いいたします。

○学校教育課長 それでは、会議次第の3番目議事録署名委員の指名以降、町長の進行でお願いいたします。

◎会議日程3 議事録署名委員の指名

○町長 それでは、本日の議事録署名委員に羽田圭吾委員を指名します。よろしくお願いいたします。

◎会議日程4 議題

○町長 早速、議題に入ります。本日の会議は「ピア・サポート事業について」を議題とします。

それでは、学校教育課参事から説明をお願いします。

○学校教育課参事 それでは説明させていただきます。よろしくお願いいたします。本日は、八雲町のピア・サポート事業について説明させていただきます。本日の流れになります。ピア・サポートとはどのようなものか、八雲町のピア・サポートとはどのような活動をしているのか、ピア・サポートトレーニングとはどのようなものなのか、そしてピア・サポートを支えるICTの活用について説明させていただきます。

それでは、まずピア・サポートについて説明いたします。八雲町小中学校全校で取り組んでいるものがここに並んでいます。確かな学び推進会議です。これは読解力向上推進チームとICT活用力向上推進チームに分かれていまして、ICT機器の活用や読解力に視点を置いた授業改善に取り組んでいるチームです。そして、これらに加えて八雲町小中学校全校で取り組んでいるのがピア・サポートプログラムです。

では、ピア・サポートとはどのようなものかということですが、これは教師の指導・援助のもと、子供たち相互の人間関係を豊かにするための学習の場を設定し、そこで得た知識や技術に基づいて、子供たちが自ら仲間を思いやり、支えていくことを目指す実践活動です。授業や放課後の委員会活動の中で子供たちが学んだことを実生活に生かすことで、仲間意識、相手を思いやることなど、そういう人間関係づくりに取り組んでいます。この活動がどのようなことに生きてくるかというと、不登校が起こらない学級づくりに貢献できます。登校して友達に会うのが楽しみになるような学級づくり。それは何よりの不登校対策になります。学級の仲間との間に困ったときも助け合える心の絆があったなら安心して学校生活を送ることができるはずです。

次に、いじめを未然に防ぐことができる学級づくりにも貢献しています。いじめの発端は、友達同士の間で起こる小さなトラブル。それらは大人の目の行き届かない場所で起こります。しかし、子供たち自身に話し合いでトラブルを解決する力があれば、いじめに発展することはありません。たとえ、教師が見ていないところでトラブルが起きても、子供たち自身がトラブルを解決する力をもっていれば、いじめは起きないということです。

そして、学習面でも大切なものです。主体的・対話的・深い学びの推進ということで、文部科学省で謳われている部分でもある授業中、子供たちが安心して自分の考えを発言するためには、何を言っても大丈夫という教室内の信頼関係が不可欠です。何かを発言した時に馬鹿にされたり、自分の発言に対して茶化されたりするようなことがあれば、学習にも取り組めません。学習活動の場が安心・安全なものになり、心配ごとが減ることで、学習意欲はさらに高まるはずです。

今は、先生が一斉にずっと説明するのではなくて、子供たちが話し合う時間を多く取るように授業改善がされています。そこで自分が発言したことがちゃんと受け入れられるという素地があることで、学力の向上にも繋がっています。

では、学年、発達段階において、どのような内容が行われるかを説明いたします。小学校の1年生から3年生くらいは、人間関係づくりの練習であったり、上手な話の聞き方であったり、さらにプラスのストロークという何かをプラスに考えるというような考え方の練習をします。

小学校4年生から6年生くらいは、人間関係づくりや上手な話の聞き方のほかに、お願いの仕方や断り方を学びます。また、対立関係の起きた時の解消の仕方なども練習します。

中学生になると、人間関係づくりや上手な話の聞き方、お願いの仕方、断り方、対立の解消の仕方のほかに、自分の内面を見つめる活動なども取り組まれていきます。

このようなことを通して人間関係づくりを行い、自己肯定感を上げていく。そういう取組がピア・サポートになります。

八雲町でこのピア・サポートの取組を中心になって推進していただいているのがスクールカウンセラーである長野喜美子先生になります。長野先生は、町内小中学校全校のスクールカウンセラーであり、日本ピア・サポート学会北海道支部長でもあります。そして、八雲高等学校で養護教諭として13年間勤務しており、八雲町のことを非常によく知っていて、ずっと八雲高等学校のピア・サポートを推進してきた方です。この方が全小中学校 11

校のスクールカウンセラーになったことで、ピア・サポートプログラムの推進に素地になりました。

では、具体的に八雲町ではどのようなことが行われているかというと、まずは職員向けの研修です。教職員がこの取組を理解できないと子供たちに広めていくことができないので、先生方に対する研修を行っています。それぞれの学校の中で実施している場合もありますし、同じ中学校区で取り組んでいる学校もあります。複数の学校の先生方が集まってこのような研修を進めております。

続きまして、児童生徒向けのプログラムです。これは、全校で実施しています。長野先生が各校に出向いて直接児童生徒に向けてプログラムをすることもあります。長野先生が職員に研修を実施したおかげで職員がそのまま児童生徒に指導する学校も結構あります。

最後に生徒主催のプログラムです。さらに先生方が学び、子供たちが学んだ上で生徒会などが中心となって自分の学校で集会を開いたり、学習を進めたり、もしくは小中学校が集まって中学生が小学生を支援しながらプログラムを進めたり、こういうように先生方のプログラム、児童生徒向けのプログラム、児童生徒自身が実施するプログラムなどがあります。

では、どのようなトレーニングを実際に行われているかを説明いたします。まず大事なルールとしては、この3つがあります。自他を尊重し、お互いを批判したり責めたりしない。このプログラムを行っている時間はそういうルールです。傾聴と理解は、話をしている人の方を向きしっかり聞くこと。そして、守秘義務になります。学習で友人から聞いた話は他では言わない。こういうルールのもとにトレーニングが実施されます。そして、相手の話をしっかり聞くというのが重要になってきますので、あいうえおの約束というのが決められています。必ずスタートする時には、小学校でも中学校でもこれを大事にしましょうということで学習が進められています。まず相手を見て、いい姿勢でうなずきながら笑顔で終わりまでしっかり聞きましょうということで、話し合いのルールが決められています。

具体的なプログラムを紹介します。これは、サイコロトークになります。サイコロで出た目のところを読んで自己紹介をし合う。自己紹介した時には相手の方を向いて、周りの子供たちは先ほどのあいうえおの約束のルールで行います。これは、データで各学校に配られています。紙で行うこともできますが、データには、このようなものがついています。これを押すと、勝手にサイコロが振られます。これは子供たちの Chromebook で行うことができます。今、数字の4が出ましたので、先ほどの表では「夕ご飯でこれが出ると笑顔になるというメニューは何？」になりますので、それを子供が説明をして周りの子供たちがうなずきながら聞く。これを繰り返して行っていくことによって、友達に話しやすい関係、相手の話を聞く関係、こういうことを行うプログラムになります。これは、一部分でありまして、他に相手が作ったものの良さを紹介し合うといったものや相手の良いところをお互い伝え合うなどそのような活動がどんどん進んでいき、高学年になってくると今度は何かトラブルが起きたときにこれをどう解決しようかというような練習も入ってきます。

次に、これはまた違うトレーニングになります。これは、欠点を解消しようというトレ

ーニングになります。

リフレーミングということを聞いた事はございますか。これは、欠点を考えていって、実はそれは良いところにも繋がっているというトレーニングの1つになります。これもシートがあって、Chromebook で子供たちができます。この中で、例えば3つ欠点を選びましょう。今は、私の欠点を3つ選んでみます。私は、周りのことをとても気にするタイプなのに負けず嫌いで甘えん坊という迷惑な性格なのですが、これをボタン1つ押すと長所に変えてくれる。そうすると、心配りができて向上心があり、人に可愛がられるタイプというようになります。ネガティブに考えていたことがポジティブに考え直していくというようなプログラムもあります。このようなトレーニングを繰り返して行くことで、子供たちの自尊心が上がってきたり相手を大切にしようという思いが生まれてきたり、人間関係の構築に繋がっていくということです。

今、このChromebook で使えるプログラムを2つ紹介しましたが、実は落部中学校の生徒が作りました。中学校3年生の受験が終わり、この生徒たちは推薦入学の生徒たちだったので、時間があるので「ピア・サポートトレーニングのプログラムを作ってみないかい？」と声をかけたところ、「やってみたい」という声があがり、保護者の承諾も得て作成しました。

以上のことから、八雲町の ICT 活用は非常に進んでいます。子供たちがこういうプログラムを作ることができるところまで進んでいます。なぜそうなのかというと、まず1つ目が環境の充実になります。LTE モデルと言って SIM カードがすべての Chromebook に入っています。このことにより、日本中どこに行っても通信ができる状態ということになります。ですから、早い段階から家庭への持ち帰りができたことで、普段使いが浸透しています。

また、高速の Wi-Fi が全校に入っていることから、どの学校に行ってもスムーズな活用ができています。

なかなか活用が進んでいない町の学校は、Chromebook をやりますよと児童が全員 Chromebook を起動した瞬間に固まってしまいます。また、充電ボックスに入っていて、使う時に充電ボックスから出して来なければならない。そういうことから活用がなかなか進んでいないようです。

そして、もうひとつの理由が確かな学び推進会議です。先ほども説明いたしましたが、全校から担当者を集め、導入時から共同歩調で活用力向上を推進してきました。今年度に関しましては Google 自治体パートナーシッププログラムを活用しまして小学校全校で活用力向上研修をしたり、中学校では探究学習に Google の専門家からアドバイス受けたりしながら取り組んでいます。

また、探究学習サイトの運営を町内でやったり、教職員の研修を充実させたりしています。夏休み冬休みを合わせて延べ 100 名が参加してくれています。その中に、今日この説明資料で使用しているシートを作ったアプリケーションもあり、研修を行いました。このようなプロフェッショナルなプログラムを先生方が作れるようになります。おそらく1、2年後には児童生徒たちもこのようなものを作ることができるようになります。そのような取組を行うことで、八雲町では ICT の活用が進んでいます。

話が逸れましたが、このようにピア・サポートを進めることによって、コミュニケーション能力が高まり、いじめの防止につながり、学力も向上し、不登校対策にもなり、学校間の繋がりもでき、先生方の環境づくりにも生かされています。このような活動を八雲町では行っています。ピア・サポートの取組は、様々な面で学校の環境づくりに役立っています。以上で説明は終わります。ありがとうございました。

○町長 説明ありがとうございました。ピア・サポート事業について、委員から意見や質問等はございませんか。

○羽田委員 今ご説明いただき、既に実施しているということでしたが、教育の現場の中でカリキュラムに組み込まれているのか、または課外活動のような形で実施されているのかということと、学校の先生たちはピア・サポートを実施するにあたって、研修に 100 人ほど参加されたということですが、今後もそのような研修を重ねて指導される先生もステップアップしていくようなシステムなのでしょうか。

○学校教育課参事 まず 1 点目の質問ですが、各学校によって実情は違いますが、特別活動の時間や学級会などの時間を活用している学校もありますし、全校集会など時間を活用したり、総合的な学習の時間に盛り込んだりして実施している学校もあります。

続きまして研修の件ですが、説明不足申し訳ございません。先ほど説明した研修は ICT の研修が 100 名の参加ということです。こちらについては夏休みと冬休みに継続して実施していき、先生方のレベルが上がれば子供たちの活用のレベルも上がっていきます。

ピア・サポートについては、全校でまずは先生の研修を実施し、学校ごとに実施しているところもありますが、年度の初めには長野先生を講師にピア・サポートを学ぶ時間は確保しています。今後、さらに活用は広がっていきます。以上です。

○町長 よろしいでしょうか。他にございませんか。

○福田委員 ピア・サポートは高校生活動の中で広がっていったと思うのですが、その高校でピア・サポートを学んでいた生徒が地域に溶け込んでいって、大変良い効果を出していたと記憶しています。これから小学生や中学生が学んでいって地域に目を向けて行けるように進んでいけることを期待します。

○町長 ピア・サポートは、高校生がやっていたのですね。

○福田委員 長野先生が当時八雲高校に勤務していたので、活発に活動していました。中学校などに行って、高校生が中学生に研修を行うこともしていました。

○町長 今も高校は活動していますか。

○福田委員 一時期は長野先生が八雲高校にいらっしゃったので活動も活発だったのですが、やはり新しい先生が転入されても研修を行ってつなげていくことが大事だと思います。

○町長 指導者が大事ですね。

よろしいでしょうか。他にございませんか。

○石岡委員 自分の子供が高校生の時に、このピア・サポートをやっていました。その時に、ピア・サポート活動をやっていると進学に有利だとか願書に書くことができると聞いたのですが、そのようなことはあるのでしょうか。

○学校教育課参事 願書に書くことはできると思います。

○教育長 先ほど福田委員もおっしゃっていましたが、高校生が中学生や小学生が集う場に行って、ボランティア活動のようにみんなで支え合うといったピア・サポートの研修のような活動をしてくださっていたので、願書に書くことができたのだと思います。

○学校教育課参事 以前、長野先生は市立函館高校でも勤務していたので、その時にピア・サポートを立ち上げて、その長野先生が築いたものがベースとなって続けられ、しっかりしたものだというので願書に書くことができたと思います。

○町長 よろしいでしょうか。他にございませんか。

○羽田委員 ピア・サポート事業は、今八雲町では町内小中学校全校で取り組んでいることはわかりましたが、全国や全道の動きなどがあって取り組むことになったのか推進している地域がわかれば教えてください。

○学校教育課長補佐 道南で言いますと、八雲町は長野先生がいらっしゃるので取り組んでいます。他に七飯町が北海道七飯養護学校と連携した取組を進めています。全道的には岩見沢市が先進的に推進しています。岩見沢市は、市内の中学校でピア・サポート活動を実践していた校長が市の教育委員会の職員になり、市内の小中学校での取組を推進していました。

○町長 八雲町は他の地域よりも進んでいるということですか。

○教育長 今年度、日本ピア・サポート学会の全国大会が札幌市で開催され、そこで積極的に自治体単位で発表に参加できたのは岩見沢市と八雲町で、後は色々な学校単位での参加でした。七飯町でも推進できている理由の1つとしては、八雲高校で長野先生の後を引き継いだ真鍋先生が七飯高校に異動になりましたので、今後七飯町でも今まで以上にピア・サポートが展開されていくのではないかと思います。

○羽田委員 今の説明ですと、八雲町は先進的に取り組んでいるということですね。

○教育長 予算もつけていただきましたので、長野先生が学校を訪問する機会を大幅に増やしました。スクールカウンセラーとしても訪問し、またピア・サポートの講師としても訪問し、直接子供たちに指導してもらうことができています。

○町長 学校だけでなく、町職員にも研修をやってもらうのも良いのではないかと思います。人を非難するのではなく、褒めることが大切ですね。

よろしいでしょうか。他にございませんか。

○小林委員 ピア・サポートを初めて知りました。この取組が、いじめや不登校対策につながることは素晴らしい取組だと感じました。

○町長 この取組は熊石地域の学校でも行われているのですか。

○教育長 すべての小中学校で行われています。

○小林委員 そうなのですね。知りませんでした。

○教育長 まだ始めたばかりの事業ですので、これからまた広がっていくと思います。

○町長 八雲町は、長野先生がいることで他の市町よりも恵まれているということですね。

よろしいでしょうか。他にございませんか。

○羽田委員 文部科学省などの行政側からこのようなプログラムを各自治体で取り組みな

さいというような方向性で進めた事業だと思っているのですが、先ほど説明を受けて自発的に進められ、なおかつ先進地域になっているということを知ることができ、非常に素晴らしいことだと感じました。

○町長 このピア・サポート事業が全道的にも八雲町は進んでいるということで、子供にとっても親にとっても先生方にとっても良い取組だと思いましたし、会話も少しずつ変わっていくと感じました。

よろしいでしょうか。他にございませんか。

(「なし」という声あり)

○町長 無ければ、本日の議題についての協議は終了させていただきます。貴重なご意見をいただき、大変ありがとうございました。これからも総合教育会議だけでなく、教育委員の皆様と様々な場面で連携を図りながら町政執行にあたってまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

◎会議日程5 その他

○町長 それでは日程5その他について発言はありませんか。

(「なし」という声あり)

○町長 なければ事務局から連絡があればお願いします。

(「ありません」という声あり)

◎会議日程6 閉会

○町長 それでは、これをもって本日の会議を終了いたします。ありがとうございました。

【閉会 午後3時29分】